

## 門田誠一先生 略歴と研究業績

### 【略歴】

#### (学歴)

- 1982年3月 同志社大学文学部文化学科文化史学専攻（日本史）卒業  
1984年3月 同志社大学文学研究科文化史学専攻（日本史）博士課程前期修了  
1986年3月 同志社大学文学研究科文化史学専攻（日本史）博士課程後期中途退学

#### (学位)

- 2006年12月 博士（文化史学） 同志社大学

#### (職歴)

- 1986年4月 同志社女子大学職員（図書館）  
1991年4月 学校法人同志社埋蔵文化財委員会調査主任  
1995年4月 佛教大学文学部史学科専任講師  
1998年4月 佛教大学文学部史学科助教授  
2004年4月 佛教大学文学部人文学科助教授  
2005年4月 佛教大学文学部人文学科教授  
2009年4月 佛教大学宗教文化ミュージアム館長（～2010年3月）  
2010年4月 佛教大学歴史学部歴史文化学科教授  
2013年4月 佛教大学研究推進機構長（～2015年3月）  
2013年4月 佛教大学総合研究所所長（～2015年3月）  
2019年4月 佛教大学人権センター長（～2021年3月）

#### (受賞)

- 1989年10月 日本海文化研究論文優秀賞（富山市）  
2007年10月 第5回佛教大学学術賞  
2023年5月 第13回日本考古学協会賞大賞『魏志倭人伝と東アジア考古学』吉川弘文館 2021年12月発行

## 【著作】

### (単著)

- 海からみた日本の古代 新人物往来社 1992年3月
- 海でむすばれた人々—古代東アジアの歴史とくらし— 同朋舎出版 1993年10月
- はんこと日本人 大巧社 1997年9月
- 海でむすばれた人々—古代東アジアの歴史とくらし〔増補新版〕 昭和堂2001年4月
- 旅する考古学—遺跡で考えた地域文化— 昭和堂 2004年
- 古代東アジア地域相の考古学的研究 学生社 2006年12月
- 文学のなかの考古学 思文閣出版 2008年9月
- 高句麗壁画古墳と東アジア 思文閣出版 2011年1月
- 東アジア古代金石文研究 法藏館 2016年1月
- はんこと日本人〔復刊〕 吉川弘文館 2018年10月
- 海からみた日本の古代〔復刊〕 吉川弘文館 2020年10月
- 魏志倭人伝と東アジア考古学 吉川弘文館 2021年12月
- 出土文字資料と宗教文化 思文閣出版 2022年2月

### (共編著)

- 古代翡翠道 (ヒスイロード) の謎Ⅱ 新人物往来社 1990年4月
- 海の向こうから見た吉野ヶ里遺跡—卑弥呼の原像を求めて— 社会思想社 1991年1月
- 日本海と出雲世界 海と列島文化第2巻 小学館 1991年7月
- 京の公家屋敷と武家屋敷 (同志社女子中・高校静和館地点、校友会新島会館別館地点の発掘調査) 同志社埋蔵文化財委員会編 1994年3月
- 天皇陵古墳 大巧社 1996年1月
- 考古学による日本歴史第10巻 雄山閣 1997年7月
- 概説博物館学 芙蓉書房出版社 2002年2月
- 博物館実習マニュアル 芙蓉書房出版社 2002年3月
- 概説博物館学〔増補改訂版〕 芙蓉書房出版社 2006年4月
- 百済の歴史と文化 枚方市文化財研究調査会 2007年12月
- 新しい博物館学 芙蓉書房出版社 2008年3月
- 古代東アジア交流の総合的研究 国際日本文化研究センター 2008年12月
- よくわかる考古学 ミネルヴァ書房 2010年5月
- 歴史を学ぶ歴史に学ぶ—歴史学部への招待— 佛教大学 2011年5月
- 新時代の博物館学 芙蓉書房出版社 2012年3月

- 森浩一著作集 全4巻 新泉社 2016年8月
- 森浩一古代学をつなぐ 新泉社 2020年8月
- 新陰陽道叢書 第1巻古代 名著出版 2020年10月

(分担執筆)

- 東アジア考古学辞典 東京堂出版 2007年5月
- 新纂浄土宗大辞典 浄土宗 2016年3月

【論文】

- 大和政権の交通的条件 森浩一編『考古学と古代史』同志社大学考古学シリーズ刊行会、1982年10月
- 昌原三東洞遺跡出土の小型鏡と銅鏃 『古代学研究』107、1985年3月
- 有溝牛角形把手—韓式土器についてのメモ— 森浩一編『考古学と移住・移動』同志社大学考古学シリーズ刊行会、1985年3月
- 東アジアにおける神籠石系山城の位置 『古代学研究』112、1986年11月
- 鉄鋌始原の一様相—韓・日発見の大型板状鉄器— 森浩一編『考古学と地域文化』同志社大学考古学シリーズ刊行会、1987年6月
- 古代加耶の戦士 森浩一編『考古学と技術』同志社大学考古学シリーズ刊行会、1988年10月
- 十二支像表現の東伝—新羅生肖系譜初探 『文化史学』45、1989年11月
- 古墳文化の成立と大陸 朝鮮半島における墳丘墓の形成 『季刊考古学』33、1990年11月
- 朝鮮半島の円墳—円墳 『古代学研究』124、1991年2月
- 東アジアにおける巨樹と鳥の意匠—藤ノ木古墳出土金銅冠の文様系列と図像学的解釈の試み 『古代学研究』126、1991年10月
- 瓦からみた高句麗の守墓制と領域支配 『文化史学』47、1991年11月
- 文様からみた初期須恵器工人の一原郷—生産関連遺跡発見資料の対照から— 森浩一編『考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズ刊行会、1992年4月
- 古墳時代における土木技術の系譜と開発の展開—盛土構造の分析的視点 『文化史学』50、1994年11月
- 角杯と牛殺しの盟誓 松藤和人編『考古学と信仰』同志社大学考古学シリーズ刊行会、1994年
- 高句麗壁画古墳の角抵図について—日本の基層文化理解の前提作業として 『鷹陵史学』22、1996年9月
- 高句麗王陵域における広開土王碑の相対的位置—「墓上立碑」の再吟味を通して 『鷹陵史学』24、1998年9月

- 土城としての御土居—土築構造と立地についての基礎的予察— 『文学部論集』〔佛教大学〕83、1999年3月
- 朝鮮三国時代における漁具出土の墳墓—古墳出土の漁具との対照検討をかねて 『文化学年報』48、1999年3月
- 百濟出土の六朝青磁と江南地域葬礼小考—墓内における青磁羊形器の意味— 森浩一編『考古学に学ぶ—遺構と遺物—』同志社大学考古学シリーズ刊行会、1999年3月
- 古墳出土の雲母片に関する基礎的考察 — 東アジアにおける相関的理解と道教思想の残映 『鷹陵史学』25、1999年9月
- 高句麗壁画古墳に描かれた仏教関連の行事について—「百戯伎楽」図の意味と系譜を中心として 『朝鮮古代研究』1、1999年12月
- 朝鮮半島と琉球諸島における銭貨流通と出土銭 『同志社大学歴史資料館館報』4、2000年3月
- 筆立ての形態的検討による陶硯の系譜—壺ノ谷16号窯出土の須恵器円形硯によせて— 佛教大学校地（文化財等）調査委員会編『壺ノ谷窯址群・桑ノ内遺跡発掘調査報告書』2000年3月
- 朝鮮三国時代の陶質土器にみられるヘラ記号 須恵器ヘラ記号との対比をかねて 佛教大学校地（文化財等）調査委員会編『壺ノ谷窯址群・桑ノ内遺跡発掘調査報告書』2000年3月
- 湯山古墳出土の雲母片と関連試料の再吟味 『古代学研究』150、2000年9月
- 装飾古墳の画題からみた地域間干渉の一側面—熊本県広浦古墳の石棺に表わされた親子大刀— 『鷹陵史学』26、2000年9月
- 新羅・皇南大塚北墳出土の鉄鏡についての覚書 『朝鮮古代研究』2、2000年12月
- 朝鮮半島の古代金石文における「人」字を含む役事職名—「人制」の検討にむけて— 佛教大学校地（文化財等）調査委員会編『園部岸ヶ前古墳群発掘調査報告書』2001年3月
- 武器・武具に伴う漁具の意味 佛教大学校地（文化財等）調査委員会編『園部岸ヶ前古墳群発掘調査報告書』2001年3月
- 古墳出土の提碁 近年の韓国出土資料との対照による若干の視点 佛教大学校地（文化財等）調査委員会編『園部岸ヶ前古墳群発掘調査報告書』2001年3月
- 古墳時代中期の地域相と「首長」「王」の実体的議論の前提について—園部盆地における中期古墳の位相から— 佛教大学校地（文化財等）調査委員会編『園部岸ヶ前古墳群発掘調査報告書』2001年3月
- 銘文の検討による高句麗初期仏教の実相—徳興里古墳墨書中の仏教語彙を中心に 『朝鮮学報』180、2001年7月
- 高句麗の初期仏教における経典と信仰の実態—古墳壁画と墨書の分析 『朝鮮史研究会論文集』39、2001年10月

- 『三国史記』百済本紀所載の築城用語に対する釈義 — 「蒸土」をめぐって— 『鷹陵史学』28、2002年9月
- 徳興里古墳築造における葬送と造墓の思想的背景—墓誌銘の出典論的研究による接近— 松藤和人編『考古学に学ぶ』2、同志社大学考古学シリーズ刊行会、2003年10月
- 海を渡って日本に来た人たち 森浩一編『京都学ことはじめ』SURE、2004年10月
- 東アジアにおける盛土工法の系譜に関する予察 風納土城の土塁構造にふれて 『大阪府立狭山池博物館研究報告』1、2004年12月
- 東国古代の出土文字資料にみる仏教語—集落における信仰と經典の実相 『佛教大学アジア宗教文化情報研究所研究紀要』1、2005年3月
- 東アジアの壁画墓に描かれた墓主像の基礎的考察—魏晋南北朝期における高句麗壁画の相対的位置 『鷹陵史学』31、2005年9月
- 日本出土漢代旒金車輿具の意義—山口県稗田地蔵堂遺跡出土資料の再吟味— 『文化史学』61、2005年11月
- 古代東国出土の線刻文字資料に関する一解釈—古代集落における經典読誦の実態— 『佛教大学アジア宗教文化情報研究所研究紀要』2、2006年3月
- 古墳出土の曲げられた鉄器について—同志社大学所蔵西山2号墳出土鉄剣の観察から— 『文学部論集』〔佛教大学〕90、2006年3月
- 高句麗古墳壁画における鎧馬図考—鎧馬騎乗人士の階層的な位置づけをめぐって 『鷹陵史学』32、2006年9月
- 陵山里百済木簡にみる仏教語 『佛教大学アジア宗教文化情報研究所研究紀要』3、2007年3月
- 古代東国出土紡錘車刻書の仏教的願文—埼玉県梶原遺跡出土資料の釈義— 『文学部論集』91〔佛教大学〕2007年3月
- 高句麗古墳壁画に描かれた角杯—亡命漢人による文物移入の様相— 松藤和人編『森浩一先生傘寿記念献呈論集—考古学に学ぶ』同志社大学考古学シリーズ刊行会、2007年7月
- 高句麗壁画古墳に描かれた塵尾を執る墓主像—魏晋南北朝期の士大夫としての描画— 『鷹陵史学』33、2007年9月
- 奈良・平安時代の仏教関係遺物とその意味—土器・陶製遺物・石製品を中心として— 『佛教大学アジア宗教文化情報研究所研究紀要』4、2008年3月
- 装飾古墳における大陸系人物像の出現—五郎山古墳を中心として— 『古代学研究』180、2008年11月
- 高句麗古墳における瓦磚使用の方法とその意味—新出瓦当銘の検討から— 『古代文化』60(3)、2008年12月
- 南丹・壺ノ谷窯址出土のミニチュア農具形須恵器 『佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀

要』 5、2009年 3月

- 古墳時代における塵尾の存否について—中華文物の移入と「威信財」の実態— 『鷹陵史学』 35、2009年 9月
- 高句麗古墳壁画中の什器と墓主—凭几を所有する意味— 『文化史学』 65、2009年11月
- 中世における倣古青銅器の移入と流通—東アジアと日本の出土遺物の検討— 『佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要』 6、2010年 3月
- 「孝酒」墨書土器の史的環境—武蔵国関連遺蹟出土資料の検討— 『文学部論集』〔佛教大学〕 94、2010年 3月
- 百済・王興寺址舍利容器銘文にみえる舎利の奇瑞と系譜 松藤和人編『考古学は何を語るのか』同志社大学考古学シリーズ刊行会、2010年12月
- 陰陽道関係考古資料の基礎的考察 『佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要』 7、2011年 3月
- 東アジアにおける殺牛祭祀の系譜—新羅と日本古代の事例の位置づけ— 『歴史学部論集』〔佛教大学〕 1、2011年 3月
- 魏晋南北朝壁画墓の威儀具と初期道教像 林博通先生退任記念論集刊行会編『琵琶湖と地域文化—林博通先生退任記念論集—』サンライズ出版、2011年 6月
- 山ノ上碑にみる孝の顕現—古代における儒仏混淆の地域的様相— 『鷹陵史学』 37、2011年 9月
- 日本古代における五方龍関係出土文字資料の史的背景 『佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要』 8、2012年 3月
- 高句麗王陵の築造思想にみる儒教と仏教—追孝から追福へ— 『歴史学部論集』〔佛教大学〕 2、2012年 3月
- 竈神にみる都と鄙—考古資料と古記録の検討 池見澄隆編『冥蹟論—日本人の精神史』(法蔵館、2012年 3月)
- 墨書土器の吉祥語と史的背景—「天福来」の検討を通じて— 『佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要』 9、2013年 3月
- 高句麗千仏信仰の系譜—延嘉七年造像銘の検討— 『歴史学部論集』〔佛教大学〕 3、2013年 3月
- 朝鮮半島の陵墓制 『季刊考古学』 124、2013年 8月
- 百済王室祈願寺と飛鳥寺の造寺思想 『鷹陵史学』 39、2013年 9月
- 金井沢碑にみる祖先祭祀の史的特質 『日本宗教文化史研究』 17 (2)、2013年11月
- 古代の技術 深萱真穂編『森浩一の古代史・考古学』KADOKAWA、2014年 1月
- 広開土王碑の守墓と勲績記事の史的背景 『歴史学部論集』〔佛教大学〕 4、2014年 3月
- 日本古代の「酒」字墨書土器と在地仏教 『佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要』 10、

2014年3月

- 魏志倭人伝にみえる黄幢の史的背景 『鷹陵史学』40、2014年9月
- 平安京出土「神油幡身」木簡一釈読と出典論的検討— 松藤和人編『森浩一先生に学ぶ—森浩一先生追悼論集』同志社大学考古学シリーズ刊行会、2015年1月
- 魏志倭人伝にみえる生食習俗の検討—中国古代の礼俗との対比— 『歴史学部論集』〔佛敎大学〕5、2015年3月
- 卑弥呼に下賜された金八両の意味—漢魏代の黄金使用との相関的検討— 『歴史学部論集』〔佛敎大学〕6、2016年3月
- 魏志倭人伝にみえる「邸閣」の同時代的意味 『歴史学部論集』〔佛敎大学〕7、2017年3月
- 卑弥呼の鬼道に関する歴史考古学的検討 『佛敎大学宗教文化ミュージアム研究紀要』13、2017年3月
- 倭人の被髪と徒跣の同時代的検討 『鷹陵史学』43、2017年9月
- 魏志倭人伝の籩豆をめぐる史的環境 『佛敎大学宗教文化ミュージアム研究紀要』14、2018年3月
- 卑弥呼に下賜された五尺刀の意義 『歴史学部論集』〔佛敎大学〕8、2018年3月
- 高句麗壁画の食肉庫と傍題 同志社大学考古学研究室編『実証の考古学—松藤和人先生退職記念論文集』同志社大学考古学研究室、2018年8月
- 魏志倭人伝の丹と真珠—倭に対する宗教民俗的認識— 『鷹陵史学』44、2018年9月
- 宮ノ本遺跡買地券にみる仏教語—大宰府官人の信仰と系譜— 『日本宗教文化史研究』22(2)、2018年11月
- 魏志倭人伝にみえる生口の検討 『歴史学部論集』〔佛敎大学〕9、2019年3月
- 卑弥呼の家の同時代史的認識 『鷹陵史学』45、2019年9月
- 仏教伝来期の經典とその系譜 白石太一郎先生傘寿記念論文集編集委員会編『古墳と国家形成期の諸問題』山川出版社、2019年10月
- 跪拝と倭人の搏手—俑と図像の示す姿態— 『文化史学』75、2019年11月
- 魏志倭人伝にみえる檄—文献と漢簡からの考察— 『歴史学部論集』〔佛敎大学〕10、2020年3月
- 津々浦々の考古学—海からの視点 前園実知雄ほか編『森浩—古代学をつなぐ』新泉社、2020年8月
- 魏志倭人伝の葬送記事にみる棺槨の意味 『鷹陵史学』46、2020年9月
- 石槨としての禹余糧の史的様相—弥生時代存在説の検討をかねて— 『日本宗教文化史研究』24(2)、2020年11月
- 土塔出土刻書須恵器の検討 『歴史学部論集』〔佛敎大学〕11、2021年3月
- 文字瓦にみる高句麗王陵修築体制—千秋塚出土資料を中心に— 『歴史学部論集』〔佛敎大

学] 12、2022年 3月

- 線刻人物図と古墳時代地域集団の対外認識—安福寺横穴を中心に— 『歴史学部論集』〔佛教大学] 13、2023年 3月
- 文刀と廷刀—刀剣銘文にみる古墳時代社会— 『考古学と文化史—同志社大学考古学研究室開設70周年記念論集』同志社大学考古学研究室、2023年 4月
- 古墳時代竈形土器副葬習俗の系譜 『鷹陵史学』 49、2023年 9月

### 【書評・短報・翻訳など】

- 魏存成著『高句麗考古』 『東洋学報』 78 (3)、1996年12月
- 心の場面を映す器物としての焼き物 『アジア宗教文化情報研究所報』 1、2004年 3月
- 平成16年度前半の調査から 『アジア宗教文化情報研究所報』 2、2004年 9月
- 風納土城の構造と築造技法に対する小考〔翻訳、申熙権原著〕 『大阪府立狭山池博物館研究報告』 1、2004年12月
- 平成16年度の調査・研究活動から 『アジア宗教文化情報研究所報』 3、2005年 9月
- 平成17年度前半の活動より 『アジア宗教文化情報研究所報』 4、2005年11月
- シンポジウム開催に向けて 『アジア宗教文化情報研究所報』 5、2006年 8月